

日本工学院専門学校		開講年度	2019年度	科目名	高度建築法規
<b>科目基礎情報</b>					
開設学科	建築学科	コース名		開設期	後期
対象年次	3年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位			授業形態	講義
教科書/教材	建築関連法令集/資料など配布				
<b>担当教員情報</b>					
担当教員	松村 哲志		実務経験の有無・職種	有・建築設計 一級建築士	
<b>学習目的</b>					
<p>建築は社会的なものであり、その存在意義からも法令に対する遵守は不可欠な要件である。これまで学習してきた建築法規の基礎を踏まえ、より高度で実践的な形で使いこなすために、建築基準法に適合する建築物を演習を通じて応用力として習得することが学習目的である。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>この科目では、建築法規の講義科目を実践と再復習を併用して学習することで、建築法規に関する興味を持たせ、1級建築士試験の受験に向けた足がかりとすることが到達目標である。</p>					
<b>教育方法等</b>					
授業概要	<p>建築法規の基礎について復習をした上で、簡単な設計演習を通して確認申請図書の作成へ取り組む。法適合するように計算で検証し、申請図書を完成させる。また、自身の設計課題を法的知識を用いて検証する。</p>				
注意点	<p>この授業では自ら能動的に行うことを留意する。特に授業で学んだことを自身の設計課題に活かす際は、類似規模の既存建築物の法律制限はどのように解決したか等を自身で研究する必要がある。</p>				
評価方法	種別	割合	備考		
	平常点	30%	普段の小テスト、建築論に関する発表について採点を行う		
	試験	50%	建築法規の基本に関する試験により採点を行う		
	レポート	20%	最新の建築法規特に確認申請に関するレポートにより採点を行う		
<b>授業計画（1回～13回）</b>					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	イントロダクション	この授業の内容、法規の重要性など			
2回	用語の定義 長屋の定義と用途地域	用語の定義、演習問題			
3回	用語の定義続き、面積、高さ	建築面積、延べ床面積、高さ、階の判定			
4回	建築確認申請	建築確認申請、手続きについて			
5回	一般構造1	天井高さ、換気、階段、シックハウス 問題演習			
6回	一般構造2	採光計算			
7回	中間試験	中間試験及びバックアップ			
8回	高さ制限	高さ制限 基本概念について			
9回	高さ制限	計算問題を中心に、道路斜線制限、隣地斜線制限、北側斜線制限			
10回	確認申請書作成について	図面の書き込み、計算各種チェックの方法についてレクチャー			
11回	確認申請書作成	図面の書き込み、計算各種チェック、実践（体験型学習）			
12回	その他の法律のおさらい	防火・準防火地域、耐火・準耐火建築物など			
13回	建築士法	建築士業務に関する改正法などを包括的に理解する			